全ての働く人々に安全・健康を
～Safe Work , Safe Life～

JISHA
Japan Industrial Safety & Health Association
中災防

社会情勢の変化・変革と安全衛生を考える

全国産業安全衛生大会（京都）
パネルディスカッション
2019年10月24日（木）

中央労働災害防止協会
理事長　八牧　暢行

話の主たるテーマ

Ⅰ．我が国の労働安全衛生を巡る変化

１．労働災害の最近の傾向と背景

２．労働災害防止に向けた提言

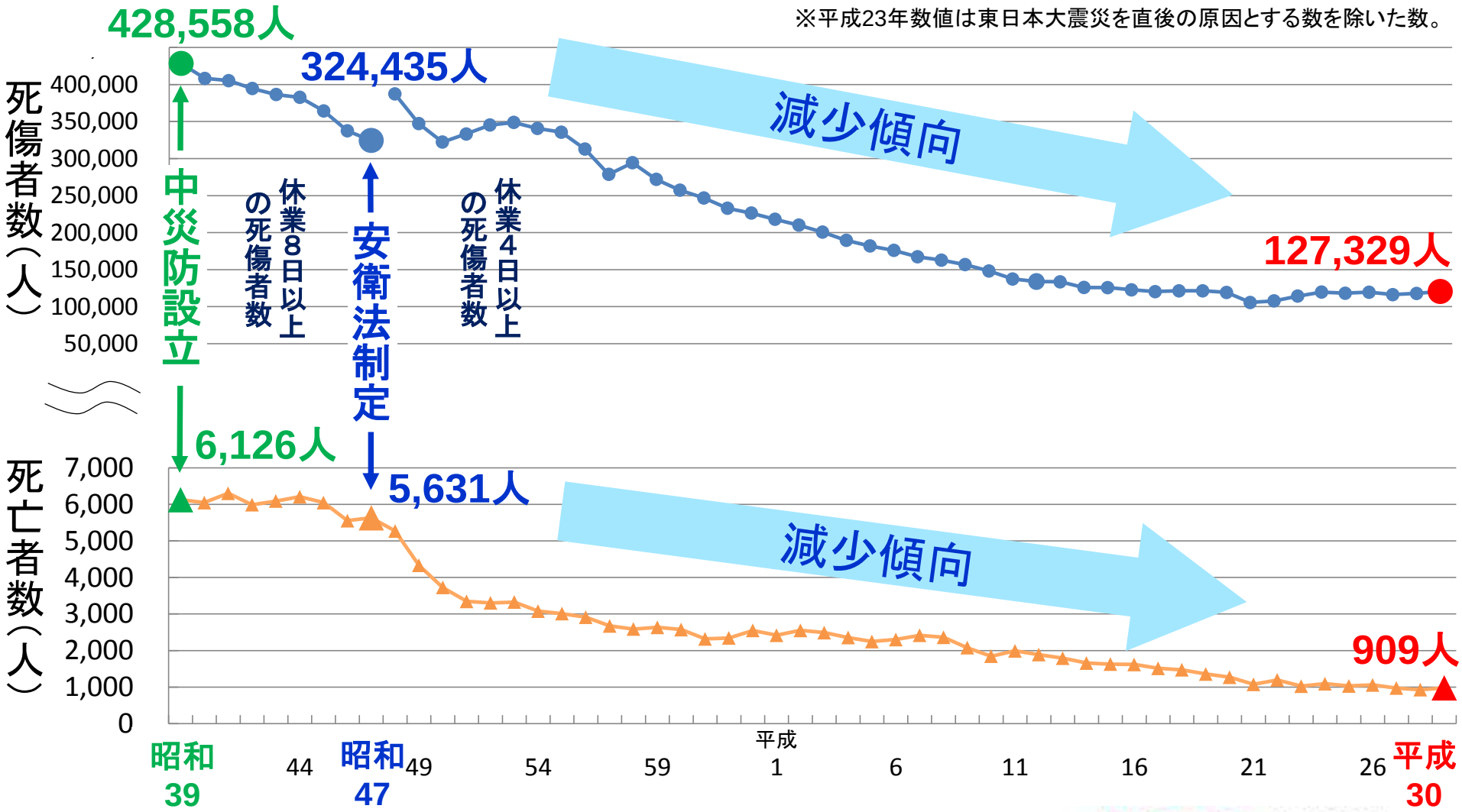
(1) 経営トップ率先の「安全第一」

(2) リスクへの知識・感性の養成とリスクアセスメントの推進

(3) 他流を知り、他流から気付く

Ⅱ．「人の命と健康を守る」との大義を持ち続ける

Ⅰ．我が国の労働安全衛生を巡る変化①



JISHA 中災防

Ⅰ．我が国の労働安全衛生を巡る変化②

1．労働災害の最近の傾向とその背景

- 我が国の労働災害防止対策
  → いわゆる「曲がり角・踊り場」に来ている

- 背景に労働安全衛生を巡る環境の変化

  e.g. ・IoT・AI・ビッグデータ等の活用による技術革新(イノベーション)
  ・働き方・価値観の多様化
  ・超高齢化社会の到来 etc.

JISHA 中災防

1. 労働災害の最近の傾向と背景①

① 人手不足と高年齢者・未熟練労働者・非正規雇用者の増加

② 技術・技能の伝承不足と現場力の低下（的確な操業差配、作業者の異常察知力、設備保全に関する技術・技能等の劣化）

③ 設備・装置の老朽化・劣化

④ 危険・有害要因の増加（新設備・機械の導入、新規化学物質の出現）

⑤ 第三次産業の就業人口比率の上昇（災害多発、安全対策意識の希薄）

⑥ メンタル不調や腰痛・転倒・熱中症の増加（ストレス社会・高年齢者増加・異常気象を象徴）

1. 労働災害の最近の傾向と背景②

加えての潮流

- 過重労働の是正を中心とした働き方改革
- 働く人の健康づくり・健康経営

JISHA 中災防

1. 労働災害の最近の傾向と背景③

次のような取り組みが早急に必要

①安全衛生教育や技術・技能・ノウハウの伝承教育の強化

②設備面でのリスクアセスメントの明確化

③安全衛生には「投資が必要」との認識の醸成

④AI・ビッグデータ等の活用による機械安全・自動化の導入

⑤個人の責に負わせるのではなく、組織としての対策の実施

2. 労働災害防止に向けた提言①

（1）経営トップ率先の「安全第一」
～真に追及する本気度を見せる～

①「安全第一」の言葉・標語には第二、第三を明示する

（品質・生産・納期は大事。しかし、第一はやはり安全）

② 安全衛生担当の職歴を経営へのキャリアパスとする

③ 安全衛生には投資が必要であることを認識する

④ 安全衛生は「経営のトッププライオリティ」と位置付ける

→「CSO（Chief Safety Officer）」の設置

JISHA 中災防

2. 労働災害防止に向けた提言②

（2）リスクへの知識・感性の養成とリスクアセスメントの推進

作業者 リスクに対する知識・感性の養成
（安全衛生教育の第一歩）

同時に ‖ 作業者の気付きを速やかに対策・対応に繋げる

組織 としての的確な仕組み(リスクアセスメント)が不可欠

JISHA 中災防

２．労働災害防止に向けた提言③

災害事例の多くからは、往々にして、当該作業者の独自の判断があることが読み取れる

- 「この程度ならと、我慢した」
- 「そこを巧くやれば(金を使わなければ、)評価に繋がると思った」
- 「安易なテクニックで一時しのぎをした」
- 「生産・品質・納期を大事と考えた」

作業者の気付きの声が速やかに管理監督層や経営層に届くようにする
　←風通しの良い職場作りや継続的な活動・発信に努める

JISHA 中災防

2. 労働災害防止に向けた提言④

中災防が行っている安全対策調査レポートで多い指摘

① 現場の巡視・パトロールがマンネリになっている

② 現場の安全管理に関する書類・ルールが多過ぎる

③ 危険ポイントが明瞭になっていない

④ リスクアセスメントが形骸化されている

⑤ 元請から下請への指示が不明瞭・不的確である

⑥ 作業指示の確認フォローが行われていない

← **安全衛生管理の盲点が濃縮されている**

JISHA 中災防

2. 労働災害防止に向けた提言⑤

中災防の対策

- リスクアセスメント・危険予知・機械安全を主眼とした社内教育
- 安全衛生キーパーソンの育成
- 内部安全監査の見直し
- 安全衛生計画の助言・フォロー
- 計画に基づく進捗のチェック

◎特に**「人材の育成」**に重点

- 管理監督層の知識・意識を高める
- 作業者一人ひとり、とりわけ、協力会社・下請事業者（入構事業者）の社員に安全衛生の大切さを理解していただく

JISHA 中災防

2. 労働災害防止に向けた提言⑥

● ゼロ災運動（ゼロ災害全員参加運動）とは ●

- 人間尊重の理念に基づく、全員参加の活動
- 安全の底上げを期す「人づくり」
- 海外の多くからも、自分達の安全活動の原点は「ゼロ災運動」であるとの声を聞く

JISHA 中災防

２．労働災害防止に向けた提言⑦

- 労働安全衛生マネジメントシステムの導入
  - 「ISO45001」と「JISQ45100」は、安全衛生活動を継続的かつシステマティックに行うための枠組み
  - 特に「JISQ45100」はKY活動、４S、職場巡視など、現場重視の視点・手法を織り込んでいる（ゼロ災運動の精神やメンタルヘルス対策・過重労働対策などの健康確保の取り組みも織り込んでいる）

システムと人間は安全衛生活動の「車の両輪」
関係者の皆様と共に、その必要性・重要性を
声高に訴え、気運を高めたい

2. 労働災害防止に向けた提言⑧

（3）他流を知り、他流から気付く

- 自前で考え、対策を講じることを尊重するものの、そこに第三者の視点・目線・声を取り入れることが大切ではないか
- 中災防は、従来に増して、皆様に「他流」をお示ししたい
- 「製造業安全対策官民協議会」は、「省庁・業種の垣根を越えた横串」を掲げており、「他流」を学ぶ絶好の機会。「横串を刺す」とは、まさに「他者に学ぼう」ということ

JISHA 中災防

Ⅱ.「人の命と健康を守る」との大義を持ち続ける①

- 労働安全衛生を担う仕事
  「人の命と健康を守る」との大義

↑

揺るぎなく持ち続けていきたい

JISHA 中災防

Ⅱ.「人の命と健康を守る」との大義を持ち続ける②

- 「経済発展と人間尊重を両立させる社会づくり」が加速している
- その潮流の真っ只中に厳然と位置するのが、災害撲滅・安全衛生の確保
- 安全衛生への取り組みは、実に崇高なこと

Ⅱ.「人の命と健康を守る」との大義を持ち続ける③

企業の価値・評価

- 企業の価値・評価においても、「安全衛生への取り組みと成果」が大きな対象にならなければいけない
- 「いい会社」は人を大切にする

＝ 「労働災害をなくす、減らす」

➡ 安全衛生を担う皆様方の出番到来！
ますますのご活躍を！

JISHA 中災防

結びに

安全専一

- 百有余年前に先人（当時のUSスチール社トップ）が訴えたレガシー
- 中災防の経営・事業の支柱

JISHA 中災防